



★ 4さいRくんのママ

以前の息子の話しかたはロボットのように感情もこもっていないくて、疑問文でも語尾が上がらなかつたりとイントネーションにも違和感がありました。

その上、自分の言いたいことを一方的に話すので自然な会話にはならなかったのです。

そこでヒントを非言語にして今までより難しくしました。わかりやすい言葉でのヒントではないから、息子は自分の頭で考えなくてはなりません。まずは「うん」と返事することから。ヒントは、「う…」（一文字だけ言うヒント）→うなずくしぐさを見せる→うなずこうとあごをあげるしぐさで止める→目をじっと見て「うん」と言わせるオーラをひしひしと感じさせる……という風に、どんどんわかりにくいヒントにしていきました。

息子がギリギリわかるレベルのヒントをだすために、工夫する毎日でした。でも、難しいほど息子がよく考えるし、できたら嬉しさもひとしお。でも難しすぎるとミスをしてしまいやる気がダウン。毎回真剣勝負でした。

そんな毎日の中で「自分で考えてしゃべる」ことの大切さに、息子自身が気づいてからは自分の言葉でしゃべるようになりました。

りさせんせいとはじめて会った翌日から急に变化したのは印象的でした。

今までは私が教えた言葉しか使わなかったのに、急に教えたこともない言葉を話すようになったんです。

例えば、以前は私がワンピースに着替えていると「あかい、ふくね、ながいねえ」という感じだったのが「おかあさん、かわいい、いいよ～」なんて感情のこもった言葉を話しました。

それからは私がひとつひとつ教えなくても、どんどん息子らしさがでてきて「こんな子だったんだ～」と思うことばかりでした。

それから1年。最近の息子は、衝動的なところも手伝って勢いまかせにしゃべりがち。先日も車で幼稚園まで行こうとしたら「ようちえんを、じてんしゃがいく！おかあさんじてんしゃのって！」と言うので、「幼稚園に自転車で 行きたい、だよ」と私が言い直しをさせました。

すると焦っているものだから間違えだらけ。「ようちえんに……」とヒントをだしたら、それに続けるように「じてんしゃでいきたい！」と言う息子。「最初から自分で言うんだよ」といっせーのせで息を吸い込んで、話しますように仕向けました。

でも急すぎて間違ってしまう。ここは間違えさせないことにこだわらず、自分で考えて言えることを大事にしようと思いました。

落ち着いて、相手に伝わるように、頭で考えながら話すのが、今の息子に必要な力かなと思ったので。そして、5回目でやっと言えた息子。

以前なら間違えてからできても、その後すねてしまっていたのに、最近は、「言えた。良かった。」という顔をして、引きずりません。そして自転車で幼稚園に向かうことになったのです。

